

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-133	A-154	13-063	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）			
Impact of alcohol use and bar attendance on smoking and quit attempts among young adult bar patrons. バーに通う青年の喫煙と禁煙の試みに対するアルコール摂取とバー利用による影響			
執筆者			
Jiang N, Ling PM.			
掲載誌			
Am J Public Health. 2013 May;103(5):e53-61. doi: 10.2105/AJPH.2012.301014. Epub 2013 Mar 14.			
キーワード			PMID
アルコール摂取、喫煙、禁煙への試み、青年、バー			23488485
要 旨			
<p>目的： バーに通う喫煙パターンが相違する青年の中で、アルコール摂取とバー利用の状況における喫煙と禁煙への試みについて調査した。</p> <p>方法： カリフォルニア州サンディエゴで 21 歳から 26 歳になるバーに通う成人の中からデータを集めるために、時間と位置情報をランダムにサンプリングする手法を用いた（n=1235；回答率=73%）。多項かつ多変量ロジスティック回帰モデルを用い、不定期喫煙者、定期喫煙者、ほとんど吸わない喫煙者、かなり吸う喫煙者における喫煙と禁煙への試みに対する飲酒と暴飲(過度の飲酒)の間の関連を年齢、性、人種および民族、教育を調整することにより分析した。</p> <p>結果： バーに通う青年では喫煙率が高く、煙草とアルコールの併用が確認できた。過度の飲酒は、喫煙状態、特に、機会喫煙あるいはほとんど吸わない状態を予測した。すべてのタイプの喫煙者でアルコール摂取を確認でき、バーの利用が禁煙を一層困難にしていた。ほとんど吸わない喫煙者においてアルコール摂取は禁煙への試みと負の関連があったが、かなり吸う喫煙者では禁煙への試みと正の関連があった。</p> <p>結論： 喫煙と、煙草とアルコールの併用は、バーに通う青年の中でよく見られるが、喫煙のパターンによって重要な違いが生じる。青年におけるタバコに関する介入では、バーの使用の有無、アルコールの摂取を優先事項として行うべきである。</p>			